

県民の森 植物紹介

⑤3

ニワトコ（ガマズミ科）

明るい林や林縁部によくみられる低木～中高木です。ニワトコの芽吹きは早く、春が近づくにつれて冬芽が丸く大きくふくらみます。割れた冬芽からは、花芽も葉っぱのあかちゃんも一斉に出てきて、まるで昆虫が羽化しているようです。開芽が他の樹木より一段と早いので、昔から「芽出たい木」とされ縁起の良い木として花材にも利用されてきました。

薬用植物としても有名で、「接骨木(セッコツボク)」とも呼ばれ、枝葉や幹を煎じて水あめ状にしたものや、黒焼きにしたニワトコとうどん粉、酢を混ぜたものを湿布薬として用いたそうです。薬用木として庭に常に植えられたから「庭常(ニワトコ)」となったとも言われています。

また、ニワトコは髄組織が特徴的で、太く発達し、中心から押し出せる白い髄は発泡スチロール状になっており、かつてはこの髄を、顕微鏡の標本用に薄い切片を切り出す支持材として利用していました。

夏に熟す赤い実は、果実酒になります。世界遺産に指定された青森県の山内丸山遺跡から出土した約5000年前の土器に大量に詰められていたニワトコの実が発見され、話題になりました。

県民の森では散策路や七滝登山道で見られますが、庭によく植えられている身近な木です。



雪のなかのニワトコ 2021年3月8日



冬芽 2021年3月8日



芽吹き 2021年4月3日



花 2021年5月17日



葉 2021年6月28日



実 2021年7月21日